

令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市教育委員会

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。
平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。
- (4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>



<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省) より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

令和7年4月17日（木）

4 調査の内容

教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none">・小学校調査は、国語、算数とし、中学校調査は、国語、数学とする。・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。<ol style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。	
	<p>【小学校 国語・算数・理科 各45分】</p>	
	<p>【中学校 国語・数学・理科 各50分】</p>	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況 など	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
	<p>【小学校・中学校とも20～45分程度】</p>	

桶川市の調査結果の概況

小学校

<教科に関する調査>

■は全国平均正答率を上回ったもの

＜国語＞

(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
言葉の特徴や使い方に関する事項	80.7	77.5	76.9
情報の扱い方に関する事項	68.7	64.8	63.1
我が国の言語文化に関する事項	83.9	81.5	81.2
話すこと・聞くこと	64.9	67.3	66.3
書くこと	74.6	71.1	69.5
読むこと	61.6	58.4	57.5

＜算数＞

(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
数と計算	64.3	63.1	62.3
図形	55.2	54.7	56.2
測定	53.7	53.9	54.8
変化と関係	58.7	57.9	57.5
データの活用	64.7	63.4	62.6

<理科>

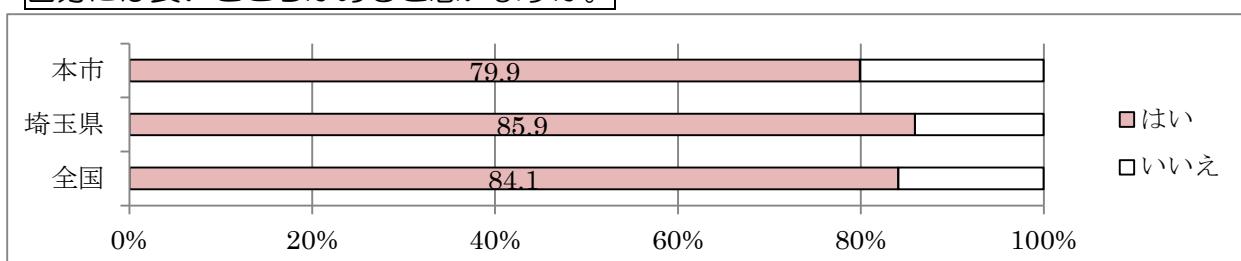
(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
「エネルギー」を柱とする領域	46.7	46.6	46.7
「粒子」を柱とする領域	53.7	52.7	51.4
「生命」を柱とする領域	57.0	53.1	52.0
「地球」を柱とする領域	69.1	67.7	66.7

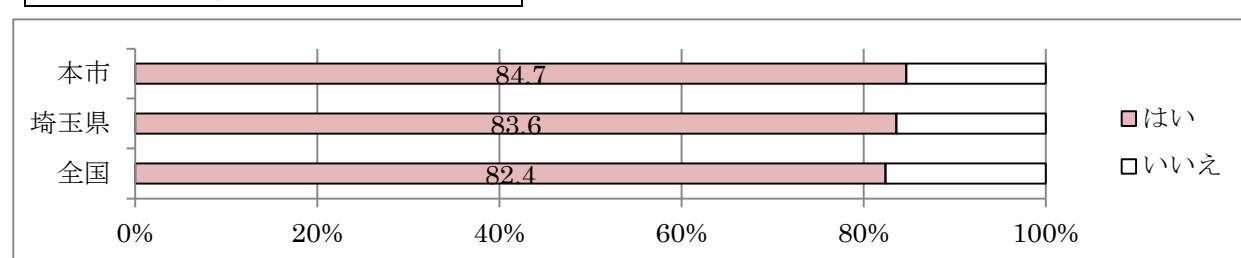
<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

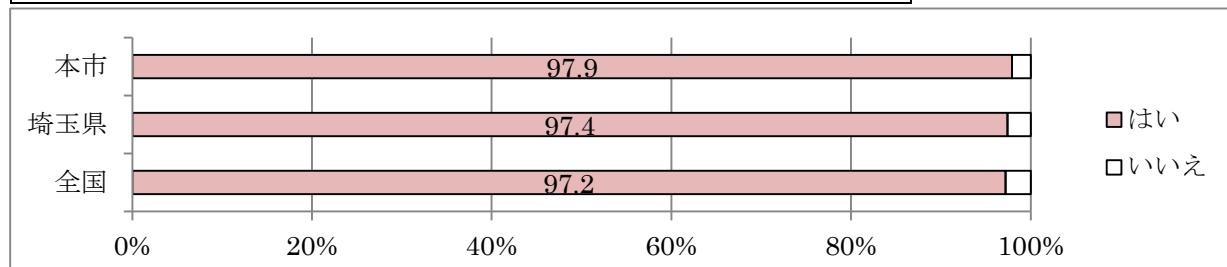
自分には良いところがあると思いますか。



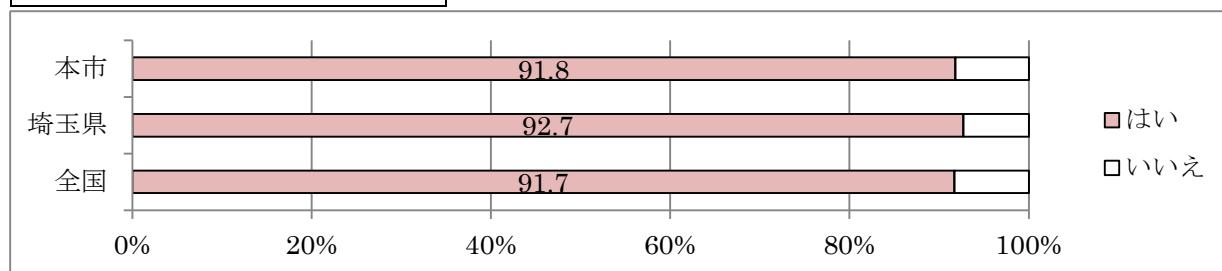
将来の目標や夢をもっていますか。



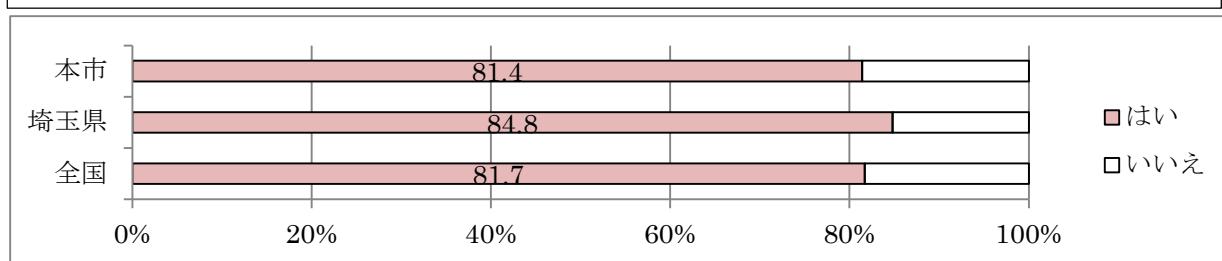
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



友達関係に満足していますか。



分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



中学校

<教科に関する調査>

■は全国平均正答率を上回ったもの

＜国語＞

(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
言葉の特徴や使い方に関する事項	48.8	48.5	48.1
情報の扱い方に関する事項	—	—	—
我が国の言語文化に関する事項	—	—	—
話すこと・聞くこと	54.9	54.3	53.2
書くこと	55.5	53.7	52.8
読むこと	62.9	63.6	62.3

＜数学＞

(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	桶川市	埼玉県	全国(公立)
数と式	48.5	45.0	43.5
図形	48.8	48.7	46.5
関数	49.6	48.8	48.2
データの活用	65.7	60.2	58.6

<理科>

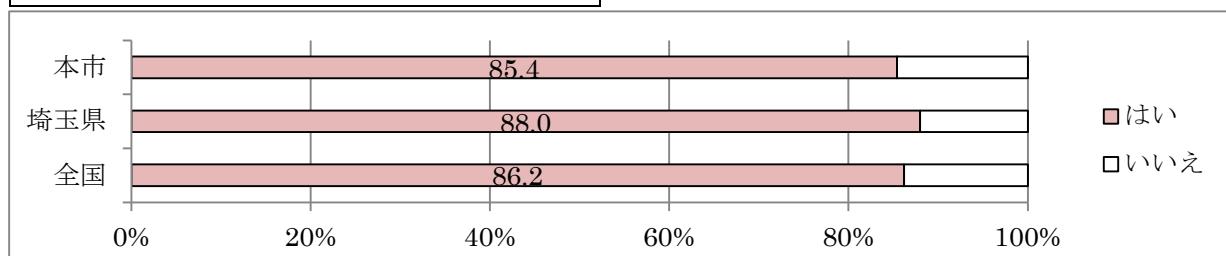
(単位なし)

	桶川市	埼玉県	全国(公立)
平均 IRT スコア	512	502	503

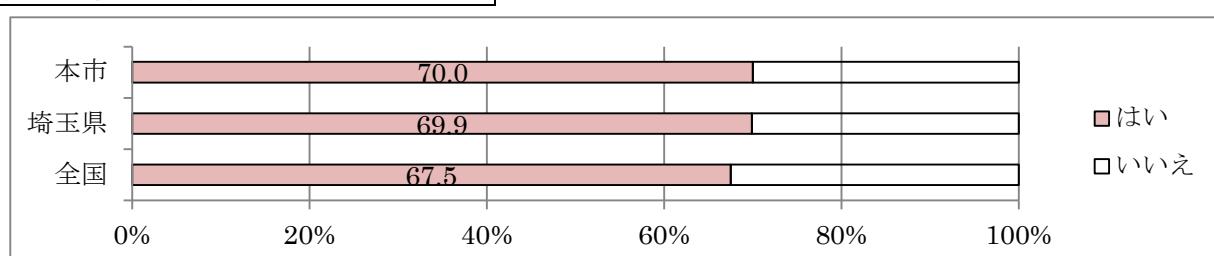
<生徒への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

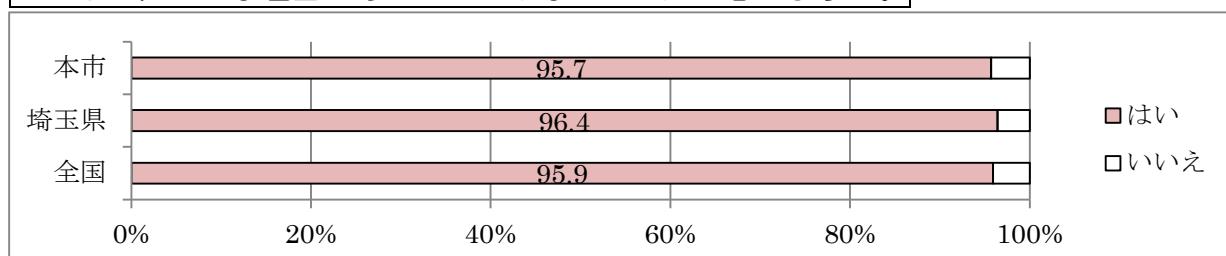
自分には良いところがあると思いますか。



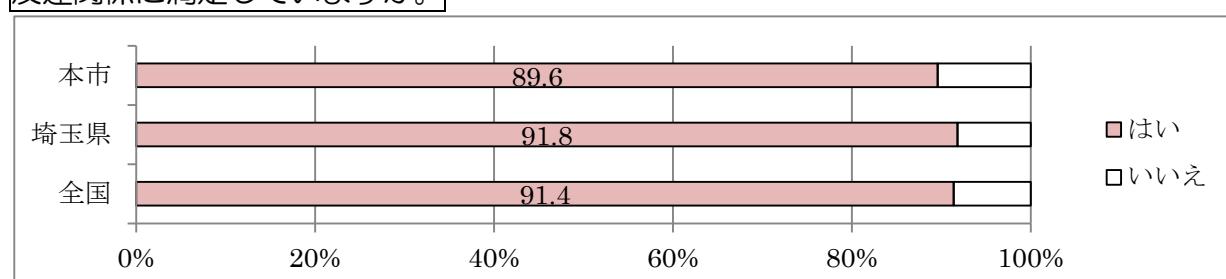
将来の夢や目標を持っていますか。



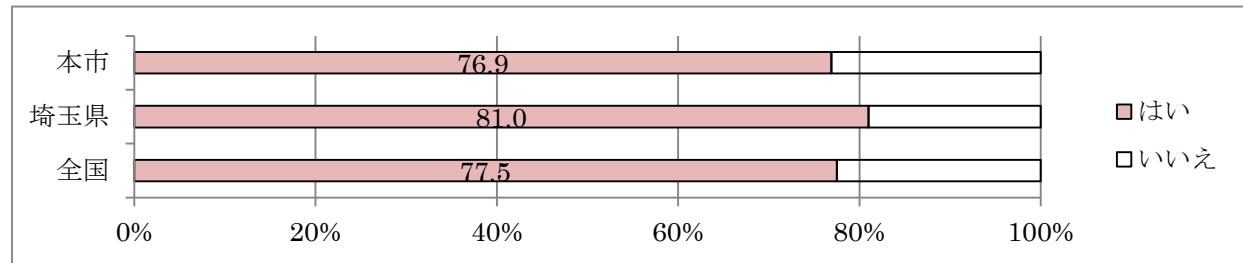
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



友達関係に満足していますか。



分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。



桶川市の調査結果の分析・考察

<小学校国語>

【領域別の分析】

結果からわかること

○学習指導要領の内容における知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の3項目全てにおいて、全国・県の平均正答率を上回りました。また、思考力、判断力、表現力等においても「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3項目全てにおいて、正答率が全国平均正答率を上回りました。

分析

- ◆「話すこと・聞くこと」では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題があります。
- 「読むこと」では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができています。
- 「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができます。

【問題例①】

問題 2三

[問題の概要]

【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く。

[出題の趣旨]

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る。

正答の条件

次の条件を満たして解答している。

- ① 【ちらし】の部を書き直し、詳しくしている。
- ② 【調べたこと】のうち、以下のことから言葉や文を取り上げて書いている。 a 〈本を読んで分かったこと〉 b 〈使ってみて分かったこと〉
- ③ 60字以上、100字以内で書いている。
本市正答率 65.0% (全国 61.3%)

<分析>

○「手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。」という文を、【調べたこと】の言葉や文を取り上げて、60字以上、100字以内で書き直して詳しくすることが求められる問題です。全国の正答率と比較して、本市の正答率が上回った問題となります。

◆誤答の原因として多かったのは、条件の②を満たしていない文章になってしまったことです。与えられた条件を理解し、その条件に沿って自分の考えを書く練習をしてみましょう。

【問題例②】

問題 1三(1)

[問題の概要]

【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する。

[出題の趣旨]

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかを見る。

正答

1 本市正答率 71.9% (県 72.0%)

誤答

2 本市回答率 6.9% (県 7.2%)

3 本市回答率 4.6% (県 5.7%)

4 本市回答率 15.4% (県 14.2%)

<分析>

◆聞くことにおいて、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにはどういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞くことが求められる問題です。県の正答率と比較して本市の正答率が下まわった2問のうちの1問です。また、無回答率が全国、県を上回った問題です。

○回答として、2から4を選択した児童については、自分が知りたいことの具体例を引き出そうとしていると捉えることができていないと考えられます。自分が聞こうとする意図を明確にして、どんなことを聞いたらよいか考えてみましょう。

<小学校算数>

【領域別の分析】

結果から分かること

- 「数と計算」「変化と関係」「データの活用」については全国平均正答率・県平均正答率を上回っています。
- 「図形」では、全国平均正答率を下回っていますが、県平均正答率を上回っています。
- 「測定」では、全国平均正答率・県平均正答率を下回っています。

分析

- 「数と計算」や「データの活用」の知識・技能の観点では、全国平均正答率を上回っていることから、「数と計算」や「データの活用」の知識・技能で高い定着が見られます。
- ◆「図形」や「測定」の知識・理解の観点や思考・判断・表現の観点において、全国平均正答率を下回っていることから、「図形」や「測定」の知識・理解や思考・判断・表現の定着に課題が見られます。

【問題例①】

問題 3 (1)

0.4は□の40個分、0.05は□の5個分です。
0.4+0.05の計算は、□をもとにすると、40+5を使って考えることができます。

上の⑦にはすべて同じ数字が入ります。
⑦に入る数字を書きましょう。

正答 0.01

本市平均正答率 79.6%

(全国平均正答率 74.1%)

本市無解答率 1.4%

(全国無解答率 2.8%)

3 (4)

$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

正答 $\frac{5}{6}$

本市平均正答率 84.2%

(全国平均正答率 81.3%)

本市無解答率 3.7%

(全国無解答率 4.1%)

<分析>

- 小数や分数の計算において知識や技能が全国平均を上回っています。
小数においては、整数の加法に帰着するため、数の相対的な大きさを理解し、より小さい単位をもとに考えることが身についていると考えられます。また、異分母の加法において、通分の考えが身についていると考えられます。
- 普段の授業の中で、小数や分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切です。

【問題例②】

問題 2 (4)

図3の面積の求め方
を五角形を2つの図に
分けて求めるとき、直線
イオと直線ウオどちらの
で分けますか。

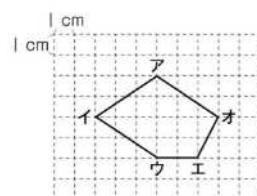


図3

選んだどちらかで、分け
た面積の求め方を書きましょう。

正答 直線イオ

【求め方】三角形アイオの面積は、 $6 \times 2 \div 2$ で求めることができます。台形イウエオの面積は、 $(6+2) \times 2 \div 2$ で求めることができます。

直線ウオ

【求め方】ひし形アイウオの面積は、 $6 \times 4 \div 2$ で求めることができます。三角形ウエオの面積は、 $2 \times 2 \div 2$ で求めることができます。

本市平均正答率 34.2%

(全国平均正答率 37.0%)

本市無解答率 1.9%

(全国無解答率 2.7%)

<分析>

- ◆本市では、無回答率は低くなっています。誤回答では、2つの図形の分け方のみを回答しているものや三角形の面積の求め方は説明できているが台形やひし形の面積の求め方を回答できていないものが多くなっていたことから、三角形以外の面積の求め方に課題がある児童が多いと考えられます。
- 多角形の面積を求める際に、図形を分割するところまでは理解できているが、台形やひし形などの基本的な図形の面積の求め方の知識や技能の定着を図ることが大切です。

<小学校理科>

【領域別の分析】

結果からわかること

○学習指導要領の領域については、「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」において、全国平均と埼玉県平均を上回りました。「エネルギーを柱とする領域」において、全国平均と埼玉県平均を下回っています。また、評価の観点においては「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれも全国平均と埼玉県平均を上回りました。

分析

○花のつくりや受粉について理解できているか、発芽の条件について解決の方法を発想しながら問題を解決できるかどうかを見る問題については、全国や埼玉県の平均に比べると理解できています。

◆電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることが知識として身に付いているか見る問題では、正答率が低いことがわかります。

○生命に関する事象では、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、問題を見いだすことができるようになりますが、その問題については、全国や埼玉県の平均に比べるとできています。

【問題例①】

問題 2 (1)

アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までのなかからそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石しやすくに引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

正答	アルミニウム	2
	鉄	1
	銅	4

本市正答率 9.9% (全国 10.6%)

＜分析＞

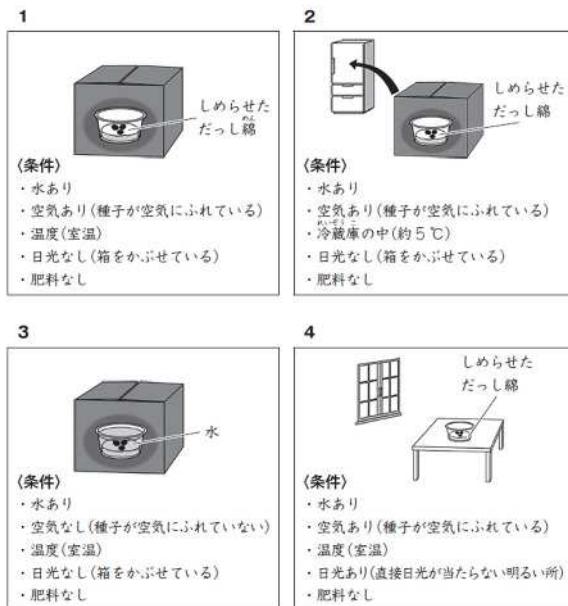
○電気を通す剣や磁石で引き付けられる板としておもちゃに使う適切な金属を考えるために、アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかなどを、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶことができるかどうかを問われる問題です。
○身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることを理解していることが大切です。

【問題例②】

問題 3 (3)

【問い合わせ】

【方法③】のケとコは、それぞれどのような条件で実験すればよいですか。ケとコにあてはまる実験を、下の1から4の中から2つ選んで、その番号を書きましょう。



正答 1、2 (順不同)

本市正答率 70.4% (全国 62.0%)

＜分析＞

○ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した観察、実験の方法を計画することができるかどうかを問う問題です。
○発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した実験の方法を発想し、表現することが求められます。

<小学校質問紙調査>

【質問例①】

質問

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度活用しましたか。

回答結果

「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた本市児童の割合

82.6%

(全国 71.7%)

【質問例②】

質問

自分にはよいところがあると思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市児童の割合

84.2%

(全国 86.9%)

<分析>

○昨年度同様、本市ではどの学校でもICTを活用して授業を進めていることが伺えます。全国と比較して10.9%上回っています。

○資料を検索すること、自分の考えをまとめること、発表するための資料を作成することなど様々な学習場面でICTを効果的に取り入れ、児童が活用することが主体的・対話的で深い学びにつながります。

<分析>

◆「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、全国と比較して2.7%下回っています。

○学校生活における様々な取組の中で、一人一人のがんばりやよさを積極的に認めて自信をもたせる指導を進めいくことが自己肯定感を高めると考えられます。

クロス集計の結果

「授業や学校生活では友達や周りの人の意見を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。×「教科に関する調査」の平均正答率

(単位%)

選択肢	児童数の割合	国語 (平均正答率)	算数 (平均正答率)	2教科平均正答率
当てはまる	49.6	72.3	59.5	65.9
どちらかといえば、当てはまる	42.1	70.6	59.6	65.1
どちらかといえば、当てはまらない	5.5	68.7	56.9	62.8
当てはまらない	2.5	53.6	36.2	44.9

○「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」と答えた本市児童の2教科(国語、算数)の平均正答率に差はなく、「当てはまらない」と答えた本市児童の2教科(国語、算数)の平均正答率よりも20%程高くなっています。

○周りの意見を聞くことを大切にすること、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことは、社会の中で生きていくために不可欠であります。学校では、毎日の授業や学校生活の中で、一人一人の意見を大切にし、互いの違いを認めて自分の考えに生かす深い学びを実践し、児童の資質能力を高めていきます。

<中学校国語>

【領域別の分析】

結果からわかつること

○学習指導要領の内容における知識及び技能において、全国及び県の正答率を上回りました。また思考力、判断力、表現力等においては「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3項目中で「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国及び県の正答率を上回りました。「読むこと」においては、全国の正答率は上回りましたが、県の正答率は下回りました。

分析

○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にできるかどうかをみるとことなどについて、高い定着が見られます。

◆文章の展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られます。

【問題例①】

問題 2三

[問題の概要]

「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する。

[出題の趣旨]

自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかを見る。

正答

- ・1 村田さんが考えたプロジェクトの長所は、プロジェクトの内容を把握してから聞いた方がよく理解できると考えられるから。

本市正答率 75.9% (全国 73.4%)

<分析>

○スピーチで考えを提案する場面において、以下の4点ができるかどうかをみる問題です。

①資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えること

②相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること

③自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫すること

④資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること

◆誤答の2から4と回答した生徒については、自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することに課題があります。自分の考えを分かりやすく伝えるためには、何が有効かを考えてみましょう。

【問題例②】

問題 3四

[問題の概要]

「一 櫻木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとどのように考えた理由を書く。

[出題の趣旨]

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかを見る。

正答の条件

次の条件を満たして解答している。

①どのような効果があるかを書いている。

②①のように考えた理由を、「の部分のような『あとに続く話』が、『一櫻木の実』にはあるが、『二釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。

③②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。

本市正答率 15.7% (全国 17.1%)

<分析>

○文学的な文章を読む場面において、以下の4点ができるかどうかをみる問題です。

①表現の効果について、根拠を明確にして考えること

②文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること

③事象や行為を表す語句について理解すること

④文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること

◆誤答の原因として多かったのは、条件の②を満たしていない文章になってしまったことです。文章の展開について、根拠を明確にして考えることに課題があると考えられます。

<中学校数学>

【領域別の分析】

結果から分かること

- 「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域で県平均正答率・全国平均正答率ともに上回っています。
- 知識・技能と思考・判断・表現の観点においても、県平均正答率・全国平均正答率ともに上回っています。

分析

- 「データの活用」において県平均正答率・全国平均正答率を大きく上回っており、主体的・対話的で深い学びを行った結果、知識・技能や思考・判断・表現が身についたものと考えられます。

【問題例①】

問題 5

20m以上25m未満の階級の相対度数を求めなさい。

ハンドボール投げの記録	
階級(m)	度数(人)
以上	未満
5 ~ 10	3
10 ~ 15	8
15 ~ 20	9
20 ~ 25	10
25 ~ 30	6
30 ~ 35	3
35 ~ 40	1
合計	40

$$\text{相対度数} = \frac{\text{階級の度数}}{\text{総度数}} = \frac{10}{40}$$
$$= 0.25$$

正答 0.25

本市平均正答率 52.8%
(全国平均正答率 42.5%)
本市無解答率 5.5%
(全国無解答率 9.4%)

<分析>

- 本市正答率は、全国平均正答率に比べて 10.3 ポイント上回っています。無解答率も全国平均正答率と比べると 3.9 ポイント低くなっています。「データの活用」の知識・技能の観点に高い定着が見られます。
- ◆正答率が全国平均正答率を上回っているものの、正答率が 52.8% とおよそ半数程度となっているため、相対度数の求め方について課題があります。
- ◎「データの活用」では、度数、相対度数、累積度数、累積相対度数などの知識・技能を定着させ、必要性と意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになります。

【問題例②】

問題 4

一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は 6 です。この一次関数について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求めなさい。

$$\text{変化の割合} = \frac{y \text{ の増加量}}{x \text{ の増加量}}$$

$$6 - \frac{y \text{ の増加量}}{2}$$

$$y \text{ の増加量} = 6 \times 2$$

$$y \text{ の増加量} = 12$$

正答 12

本市平均正答率 34.4%
(全国平均正答率 34.7%)
本市無解答率 7.3%
(全国無解答率 8.0%)

<分析>

- ◆本市正答率は、全国平均正答率に比べて 0.3 ポイント下回っています。「関数」の知識・技能の観点で課題があります。
- ◆誤答を分析すると 17 と回答している生徒が 29.5% となっていることから x に 2 を代入し、 y の値を求めた生徒が多いと考えられます。また、次に 6 と回答している生徒が 8.8% となっていることから変化の割合を回答している生徒も見られました。
- ◎一次関数では、変化の割合、 x の増加量や y の増加量、 x の値、 y の値の用語の意味や求め方などの知識・技能を定着させることが大切です。また、それらの違いを理解させ、定着を図ることが大切です。

<中学校理科>

【領域別の分析】

結果からわかること

○学習指導要領の領域については、「粒子を柱とする領域」において、全国平均及び埼玉県平均を上回りました。

◆「エネルギーを柱とする領域」以外の領域については、全国平均を下回りました。

分析

○塩素の元素記号をClと表記する場合において、2文字の元素記号について1文字目「大文字」、2文字目「小文字」で表し、全国平均と比較することができます。このため、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いていると考えられます。

○ 気圧に関する身の回りの事象について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を活用できるかどうかを見る問題から、観察、実験の結果を分析して解釈し、予想を立てたり仮説を設定したりして、見通しをもって探究を進めていくことが全国平均と比べるとできています。

◆【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかを見る問題については、正答率が低いことがわかります。

◆知識及び技能を身に付けたり、その知識及び技能を活用するような問題に対して、正答率が低くなる傾向にあることが分かります。

【問題例①】

問題 2 (1)

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。
下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか。1つ選びなさい。上のア、イ、ウのどの実験を選んでもかまいません。また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形からに何が分かればよいか、振動数という言葉を使って書きなさい。

正答

アを選択したとき

(例) 実験1、2より振動数が多いことが分かればよい。

イを選択したとき

(例) 実験1より振動数が少なく、実験2より振動数が多いことが分かればよい。

ウを選択したとき

(例) 実験1、2より振動数が少ないことが分かればよい。

本市正答率 12.4.% (全国14.0%)

<分析>

○【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかを見る問題です。

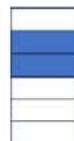
○予想される実験の結果を適切に説明するなどの場面において、「実験1と比較して・・・」など、比較して関係付ける対象を明確にして示すような言語活動の充実も求められます。

【問題例②】

問題 8 (2)

下線部の考えが正しいと言うためには、ボーリング地点③のボーリングの結果がどのようになればよいか。□を必要な数だけ適切な位置に移動させ、最も適切なボーリング地点③の結果を示しなさい。

正答 (例)



本市正答率 18.2% (全国 18.1%)

<分析>

○Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで表します。

○大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかを見る問題です。

○「地球」を柱とする領域では、時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論したり、地層の広がり方を推定したりできるようにすることが大切です。

◆層の厚さが同じ厚さであると捉えているが、断層の跡やその位置、地層の傾きに着目していない生徒がいると考えられます。

<中学校質問紙調査>

【質問例①】

質問

1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度活用しましたか。

回答結果

「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた本市生徒の割合

84.0%
(全国 76.5%)

【質問例②】

質問

自分にはよいところがあると思いますか。

回答結果

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた本市生徒の割合

85.4%

(全国 86.2%)

<分析>

○昨年度同様、本市ではどの学校でもICTを活用して授業を進めていることが伺えます。全国と比較して7.5%上回っています。

◎資料を検索すること、自分の考えをまとめるここと、発表するための資料を作成することなど様々な学習場面でICTを効果的に取り入れ、児童が活用することが主体的・対話的で深い学びにつながります。

<分析>

◆「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国の平均と比較して0.8%下回っています。

◎比較的高い結果となっていますが、学校生活における様々な取組の中で、がんばりやよさを具体的に伝え、積極的に認めて自信をもたせる指導を進めていくことで生徒の自己肯定感をさらに高めていきます。

クロス集計の結果

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」×「教科に関する調査」の平均正答率

(単位%)

選択肢	生徒数の割合	国語 (平均正答率)	数学 (平均正答率)	2教科平均正答率
当てはまる	29.4	56.8	53.8	55.3
どちらかといえば、当てはまる	47.5	56.9	53.8	55.4
どちらかといえば、当てはまらない	18.2	52.4	47.6	50
当てはまらない	3.9	53.9	40.7	47.3

○「当てはまる」と答えた本市生徒の2教科(国語、数学)の平均正答率は、「当てはまらない」と答えた本市生徒の2教科(国語、数学)の平均正答率よりも8%高くなっています。

◎友達や周りの考えを大切にして、協力して課題解決していくことは、社会の中でも必要不可欠なことです。国語や数学の授業において、互いの考えを共有することや違う意見も受け入れることをとおして、自分の考えに生かすことや学び合うよさを実感することが、学習した内容の定着につながっていきます。そのため、学校では、授業において個人で考える活動や、ペアやグループで話し合う活動、学んだことを振り返る活動をどの教科においても取り入れていきます。



<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

小学校 令和7年5月14日（水） 中学校 令和7年5月8日（火）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

小学校 <教科に関する調査> ■ は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	12	62.5	62.7	12	75.1	74.9	15	72.2	70.0
情報の扱い方、我が国の言語文化	5	40.0	41.2	4	66.4	64.6	2	71.5	69.9
話すこと・聞くこと・書くこと	9	48.5	46.1	6	47.2	46.4	5	53.4	49.9
読むこと	4	52.5	50.0	8	58.0	56.2	9	47.1	44.2
※学力の伸びた児童の割合	△	△	△	△	↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑	△	↑↑↑	↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	67.5	67.3	14	50.2	52.0	13	61.1	59.0
図形	5	63.1	64.9	8	52.4	52.1	8	44.8	43.9
4年測定 5, 6年変化と関係	7	70.8	68.2	6	37.4	36.1	7	57.8	54.5
データの活用	6	65.4	62.5	4	47.4	46.5	5	47.0	45.7
※学力の伸びた児童の割合	△	△	△	△	↑↑↑	↑↑↑	△	↑↑↑	↑↑↑

<児童への質問紙調査>（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本市の達成率、■は80%以上 (%)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年
○ けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	93.3	93.9	94.4
		92.2	92.4	93.9
	② 授業の開始時刻	88.4	91.2	95.4
		87.0	89.1	95.6
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	77.8	80.7	87.4
		77.1	77.7	85.8
	④ 整理整頓	81.4	78.1	80.2
		79.2	75.8	77.6
	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	81.5	82.0	84.5
		77.5	81.2	85.8
	⑥ 返事	88.5	91.1	93.6
		87.2	89.9	92.8
○ 礼儀正しく人と接することができる	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	88.7	90.3	92.9
		85.1	90.8	92.8
	⑧ やさしい言葉づかい	85.5	86.9	89.4
		85.1	87.2	87.6
	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	82.4	85.9	89.7
		82.3	85.1	90.2
	⑩ 話を聞き発表する	83.8	83.2	83.7
		79.8	77.0	81.8
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	82.9	84.6	87.8
		83.8	81.2	88.1
	⑫ 掃除・美化活動	87.7	87.3	88.9
		88.5	86.6	90.2

中学校

＜教科に関する調査＞  は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	66.9	65.3	13	64.6	60.4	11	55.9	55.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	67.8	67.4	7	45.1	43.8	8	65.0	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	4	60.1	59.3	4	68.8	65.0	4	53.5	53.0
読むこと	8	56.7	56.8	7	51.6	48.5	8	56.4	54.7
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

数学	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
数と計算	10	56.6	58.2	11	59.7	56.3	11	63.2	60.0
図形	10	52.1	52.0	8	47.0	42.2	8	51.2	49.7
1年変化と関係2、3年関数	8	48.3	49.4	7	58.2	54.0	8	54.1	52.8
データの活用	5	45.5	43.9	7	56.8	52.1	6	67.5	64.9
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率	設問数	本市平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	76.0	73.6	10	54.9	55.8
読むこと	15	60.4	59.4	19	57.8	57.2
話すこと	2	24.0	18.5	2	13.8	12.5
書くこと	9	58.6	55.7	5	37.3	37.0
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

<生徒への質問紙調査>（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本市の達成率、
は80%以上 (%)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○ けじめある生活 ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7	96.6	96.1
		97.6	97.0	96.0
	② 授業の開始時刻	96.6	97.4	97.7
		94.2	97.2	97.6
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.6	91.6	93.1
		83.4	88.8	93.4
	④ 整理整頓	72.6	74.8	74.9
		64.8	71.7	77.3
○ 礼儀正しく人と接 する こと が できる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	88.1	88.1	87.5
		81.6	83.9	88.8
	⑥ 返事	94.8	94.9	95.3
		92.9	95.5	95.4
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.7	92.8	93.9
		90.3	93.6	94.4
	⑧ やさしい言葉づかい	89.5	90.9	90.8
		85.2	92.1	90.6
○ 約束やきまりを 守 ること が できる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	92.8	93.6	94.3
		89.4	94.2	96.6
	⑩ 話を聞き発表する	83.4	83.3	85.4
		77.4	81.8	84.5
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.0	93.1	94.8
		89.1	94.2	93.2
	⑫ 掃除・美化活動	87.7	88.0	89.2
		84.7	88.2	85.3

桶川市の学力向上の取組

教育委員会では、学力向上を教育行政の最重要課題として位置付けており、各学校におけるより一層の学習指導の改善・充実に向け、支援を行っています。「確かな学力」を身に付けさせるために、「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善と各教科等における『指導と評価の一体化』の推進、「一人一台端末等のICTを効果的に活用した授業実践」を重点に取り組んでいるところです。

また、各学校においては、各種調査の結果を分析して成果や課題を明らかにするとともに、学力向上プランを見直し、教職員で課題を共通認識して、授業改善等に取り組むことを確認しています。教育委員会としましては、市内全小・中学校への学校訪問を行い、埼玉県教育局南部教育事務所の支援を受けながら、学校課題研究の充実や学力向上に向けた授業改善等についての指導・助言を通して、各学校の取組の推進を支援してまいります。

1 学校課題研究（校内研修）の充実

- (1) 研究主題に迫るための授業研究会の実施
- (2) 今年度の研究発表校

学校名	研究領域	研究主題等	研究発表会
朝日小学校	ICTの活用	1人1台端末を有効活用した授業改善 ～個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指して～	令和7年 10月31日（金）
加納中学校	学習指導・学力向上	意欲を持ち自ら学びに向かう生徒の育成 ～教科の特性や教材に応じたICTの効果的な活用を通して～	令和7年 11月6日（木）
桶川東中学校	学習指導・学力向上	自他を認め、思いを豊かに伝える生徒の育成 ～自己肯定感を高める教育実践を通して～	令和7年 11月25日（火）
日出谷小学校	学習指導・学力向上	安全 安心 楽しい学校	令和7年 11月28日（金）

2 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進

- (1) 学習の見通しをもち、粘り強く学習に取り組み、学んだことを振り返る学習活動の充実

【主体的な学びの実現】

- 学習課題（ねらい）の明示
- 一人一人の自分合った追究方法や手順等の選択・決定への支援
- 課題に対応したまとめと、学びの振り返りの徹底

- (2) 思考力・判断力・表現力の育成を図る言語活動の充実

【対話的な学びの実現】

- 互いの意見の交流や発表を積極的に行う授業の展開

- (3) 習得・活用・探求といった問題解決的な学習の充実

【深い学びの実現】

- 身につけた力をもとに、新たな課題をみつけ、解決し、新しく創り出すことのできる学習計画と評価の工夫

3 一人一台端末の効果的な活用の推進

- (1) 個別最適で協働的な学びの一体化の実現

- 児童生徒一人一人の目的に合った追求活動と表現活動の実現に向けたICTの活用

- 全ての児童生徒が情報の収集、編集を経験し、瞬時に多様な考えを共有できる学習活動の工夫

保護者の皆様へ

今回の調査で「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に対し、小学校では91.7%、中学校では92.6%と、多くの児童生徒が肯定的な回答をしています。ご家庭におきましても、学校や社会において自分も相手も大切にすることがよりよい生き方につながることを話題にしていただくようお願いいたします。保護者の皆様には、今後とも本市の学校教育活動にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。